

水稻品種「あいちのこころ」 安定栽培マニュアル



令和7年6月

愛知県農業総合試験場

「あいちのこころ」栽培暦【移植栽培】

時期	作業	資材/農薬	使用量 10a当り	備考
冬期	土改材散布			必要に応じて土壌改良を行う
5月中旬	種子消毒	地域慣行剤		窒素成分で 7~8kg/10a ※窒素吸収量11kg/10aを目標とし、地力に応じて加減する 栽植密度 50~60株/坪 (15.2~18.2株/m ²)
	育苗 代かき			
	施肥	側条エース 標準用 (26-11-9)	27~ 31kg	
	田植え			
6月下旬~ 7月上旬	除草剤散布	地域慣行剤		
	中干し	倒伏防止のため肥沃なほ場では強めに行う		
8月上旬	出穂			
	カメムシ類防除	地域慣行剤による防除を必ず実施		
9月中旬	収穫	黄化率85~90%を目安に収穫(出穂後40日頃)		
	耕起			成熟後速やかに行う 落水は収穫7日前まで行わない 収穫後は速やかに耕起しましょう

※病害虫防除

○ 種子消毒・箱施薬

慣行の防除方法に準じて行う。

○ 本田防除

カメムシ類による吸汁害を防ぐため、防除を行う。

周辺ほ場と出穂期が異なる場合は、出穂期にカメムシ類が集まりやすいため、特に注意する。

いもち病の常発地や葉いもちが多発するほ場では防除を行う。

前年、紋枯病が発生したほ場では発生が予想されるため、防除を行う。

その他、必要に応じて防除を行う。

「あいちのこころ」栽培暦【V直栽培】

時期	作業	資材/農薬	使用量 10a当り	備考
冬期	土改材散布 代かきまたは鎮圧整地			必要に応じて土壌改良を行う
3月～ 4月中旬	種子消毒 播種・施肥	地域慣行剤 種子 乾田直播くん標準用(41-0-0)	6kg 22～25kg	3月に播種する場合は出芽数を確保するため、8kgとする。 窒素成分で 9～10kg/10a ※窒素吸収量13kg/10aを を超えないよう地力に応じて加減する
5月上旬	除草剤散布	地域慣行剤		非選択性除草剤
5月上中旬	出芽			
5月中下旬	除草剤散布 入水	地域慣行剤		選択性除草剤
6月上旬	除草剤散布 (初中期一発剤)	地域慣行剤		
8月上旬	出穂 カメムシ類防除	地域慣行剤による防除を必ず実施		
9月中旬	収穫	黄化率85～90%を目安に収穫(出穂後40日頃)		
	耕起			成熟後速やかに行う 落水は収穫7日前まで行わない 収穫後は速やかに耕起しましょう

※病害虫防除

○ 種子消毒

慣行の防除方法に準じて行う。

○ 本田防除

カメムシ類による吸汁害を防ぐため、防除を行う。

周辺ほ場と出穂期が異なる場合は、出穂期にカメムシ類が集まりやすいため、特に注意する。

いもち病の常発地や葉いもちが多発するほ場では防除を行う。

前年、紋枯病が発生したほ場では発生が予想されるため、防除を行う。

その他、必要に応じて防除を行う。

「あいちのこころ」の特性等について

1 育成・普及の概略

「愛知 118 号」（「あいちのかおり SBL」にツマグロヨコバイ抵抗性を付与した系統）に高温登熟性を導入した BC₃F₃ 系統を母本、「あいちのかおり SBL」に早生遺伝子を導入した BC₃F₂ を父本として 2016 年に交配。2019 年に「愛知 135 号」の系統名を付与し、2023 年 9 月に県の奨励品種として採用され、2025 年度から、生産者へ向けた一般栽培種子の供給が開始された。

2 栽培特性

- 出穂は「あさひの夢」より 1 日遅く、「ゆめまつり」より 2 日早い早生品種。
- 稈長は「あさひの夢」、「ゆめまつり」より 10cm 程度長い。
- 穂長は「あさひの夢」、「ゆめまつり」より 1.5cm 程度長い。
- 収量は「あさひの夢」、「ゆめまつり」と同等。

表1 生育・収量データ（2017～2022年産平均・長久手市）

品種・系統名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精玄米重	対照比率	倒伏
	月.日	月.日	cm	cm	本/m ²	kg/10a	%	
あいちのこころ	8.10	9.15	80	21.9	418	588	101	0.9
(対) あさひの夢	8.09	9.13	70	20.3	395	582	100	0.1
(対) ゆめまつり	8.12	9.16	71	20.6	400	531	91	0.0

移植は5月中下旬、倒伏の多少：0（無）～5（甚）

3 外観品質

- 千粒重は「あさひの夢」、「ゆめまつり」より 1.7g 程度重い。
- 高温登熟性は「強」であり、「あさひの夢」、「ゆめまつり」と比較して白未熟粒が発生しにくく外観品質が優れる。

表2 外観品質特性（2017～2022年産平均・長久手市）

品種・系統名	玄米千粒重	外観品質
	g	
あいちのこころ	23.7	4.4
(対) あさひの夢	21.9	5.7
(対) ゆめまつり	22.1	5.8

移植は5月中下旬、外観品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価、5.0が1等下限、6.0が2等下限、7.0が3等下限相当



図1 玄米の比較

4 病害虫抵抗性

- イネ縞葉枯病、ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持つが、セジロウンカの殺卵作用は無い。

表3 病害虫抵抗性

品種・系統名	イネ縞葉枯病	穂いもちほ場抵抗性	イネ白葉枯病	ツマグロヨコバイ	セジロウンカ殺卵作用 ¹⁾	穂発芽性
	あいちのこころ	抵抗性	中	やや強	抵抗性	
(対) あさひの夢	抵抗性	やや強	中	感受性	無	中～やや難
(対) ゆめまつり	抵抗性	強	中	抵抗性	有	極難～難

1)産み付けられた卵を殺す作用

「あいちのこころ」の栽培方法

1 目標

本マニュアルは、**精玄米重 570kg/10a、玄米タンパク質 7.7%（乾物あたり）**以下を安定的に確保することを目標とし、栽培管理上のポイントをまとめたものである。

2 移植栽培

○ 移植時期

5月中旬（「あさひの夢」・「ゆめまつり」に準ずる）

5月中旬移植が最も精玄米重が多かったため、移植時期の目安とする。

表4 移植日ごとの生育・収量（2020～2022年産平均・長久手市）

移植日	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精玄米重
月.日	月.日	月.日	cm	cm	本/m ²	kg/10a
4.21	7.31	9.07	76	21.7	356	528
5.12	8.08	9.12	78	22.3	371	543
5.19	8.10	9.15	81	21.8	392	561
6.08	8.22	9.26	94	26.1	348	533

平均に用いた年産が異なるため、精玄米重の水準は表1と異なる

○ 栽植密度

坪 50～60 株（15.2～18.2 株/m²）を目安に移植

坪 37～70 株の範囲では、精玄米重、玄米タンパク質、千粒重に差は見られないが、極端な疎植、密植は環境条件により減収のリスクが高まるので注意する。

表5 栽植密度ごとの玄米収量・品質（長久手市）

栽植密度	精玄米重	玄米タンパク質	玄米千粒重
株/坪	kg/10a	% (dry)	g
37	638	7.6	25.7
50	623	7.5	25.5
60	618	7.5	25.8
70	640	7.6	25.5

移植は5月中旬、高収量であった2022年産単年のデータである

○ 施肥

側条エース標準用で窒素成分 7～8kg/10a を目安に施用

年次変動はあるが、窒素吸収量 12kg/10a を超えると稈長が 90cm を超え、倒伏の危険性が高まる。成熟期の窒素吸収量 11kg/10a 程度で精玄米重 570kg/10a、玄米タンパク質 7.7%（乾物あたり）以下を安定的に得られると考えられるため、窒素吸収量の目標を 11kg/10a とする。肥料利用率等から推定すると、地力が中庸な水田（培養窒素 3～4mg/100g、全窒素 0.13%）の場合、窒素施肥量は 7～8kg/10a となることから、これを施肥量の目安とする。

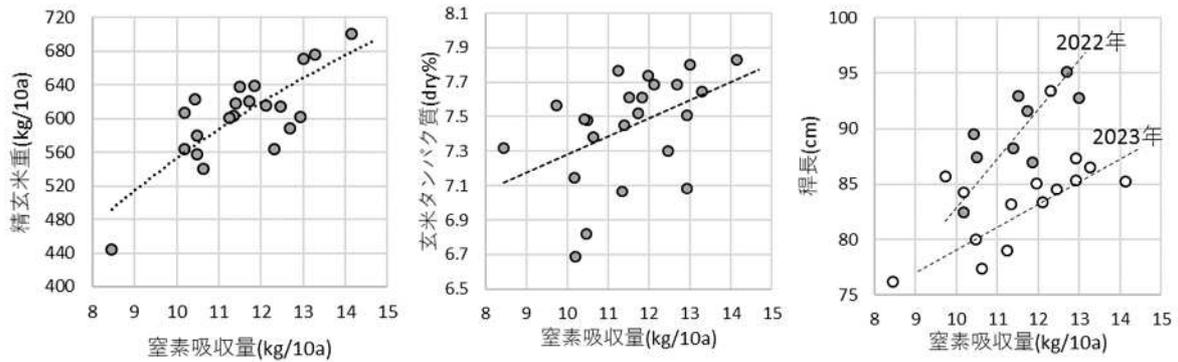


図2 成熟期の窒素吸収量と精玄米重、玄米タンパク質、稈長
(2022～2023 年産 県内 11 地点、移植栽培のデータ)

3 V直栽培

○ 播種時期

3月～4月中旬、播種量 6kg/10a (「あさひの夢」・「ゆめまつり」に準ずる)

○ 施肥

乾田直播くん標準用で、窒素成分 9～10kg/10a を目安に施用

精玄米重 570kg/10a を得るためには、成熟期の窒素吸収量で 12kg/10a 以上必要であると考えられたが、13kg/10a を超えると玄米タンパク質が 7.7% (乾物あたり) 以上となるリスクが高まる。肥料利用率等から推定すると、地力が中庸な水田の場合、窒素施肥量 9～10kg/10a を施肥量の目安とする。

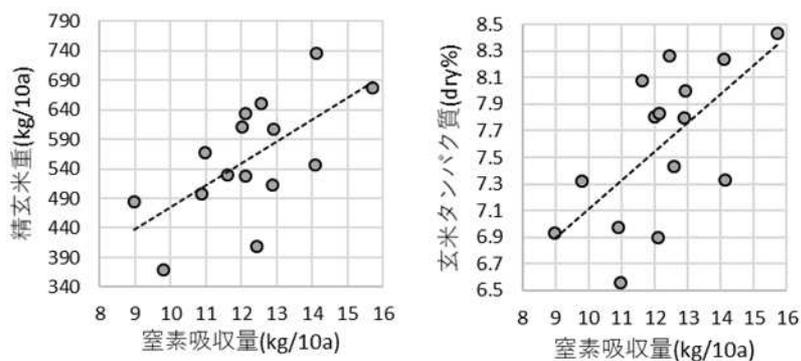


図3 成熟期の窒素吸収量と精玄米重、玄米タンパク質
(2022～2023 年産 県内 7 地点、V 直栽培のデータ)

4 病害虫防除

○ 種子消毒・箱施薬

地域の防除方法に準じて行う。

○ 病害

紋枯病防除を徹底する

紋枯病の菌は、ほ場で越冬するため、前作で紋枯病が発生したほ場は多発による倒伏・減収の危険性が高い。このため、本田防除を実施する。

いもち病に注意する

いもち病の常発地や葉いもちの多発ほ場では、秋の長雨等により穂いもちが発生する場合がありますので注意する。

○ カメムシ類防除

本田防除を必ず実施する

カメムシ類による吸汁害は、玄米品質を低下させるだけでなく、大幅な減収につながることもあるため、本田防除は必ず行う。特に、周辺ほ場と出穂期が異なる場合は、出穂期にカメムシ類が集まりやすくなるため、ほ場の選定には注意する。

○ ウンカ類防除

7月下旬～8月に多発しているほ場では防除を実施する。

5 雑草管理

発生状況に応じて適正に行う。

6 収穫

黄化籾率 85～90%を目安に収穫する（出穂後40日頃）

刈り遅れによる品質低下を防ぐため、成熟後は速やかに収穫する。

また、早期の落水は登熟が悪くなり、収量を低下させるため、収穫7日前までは落水しないようにする。

内容に関する問い合わせ先

愛知県農業総合試験場 普及戦略部技術推進室
作物研究部作物研究室

〒480-1193

愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話（ダイヤルイン）

技術推進室 0561-41-8966

作物研究室 0561-41-9517